

## お盆

平成30年7月第3週放送

---

今年も七月のお盆の季節になりました。

お盆という言葉は、<sup>うらぼん</sup>孟蘭盆という仏教用語を略したもので、孟蘭盆という言葉は、最近の研究ではペルシャ語の「魂」を意味する「ウルバン」という言葉が由来であるという説が有力です。

また七月十五日は、仏教教団における集中修行期間が終わる日で、修行僧がその間の自分を振り返り過ちを告白するという儀式が行われます。当時のインドには、その儀式の後に修行僧たちへ食事をはじめとするさまざまな供養を施すことで、最高の功德が亡き両親やご先祖さま方に行き渡るといふ信仰がありました。

このインドの信仰と、仏教が伝わってきた国々、そして日本のご先祖さまを思う気持ちが重なり合い、お盆という行事になったといわれています。

皆さんは、このお盆でお墓からご自宅にお連れしたご先祖さま、亡き方がたに、どのような食べ物をお供えなさっていますか。生前にお好きだったもの、食べさせてあげたいおいしいもの、今、<sup>ちまた</sup>巷で流行っているもの……。

食べ物は、直接「いのち」に関わるものです。食べ物をお供えするということは、亡き方の「いのち」を<sup>かん</sup>観じ敬うことであり、「いのち」そのものを見つめることであると言えるでしょう。

お釈迦さまには十の別名があり、その中の一つに「<sup>おうぐ</sup>応供」というものがあります。供えるに値する、供養を受けるにふさわしい、という意味です。

お宅にお迎えをしたご先祖さま・亡き方がたは、あなたに「いのち」を繋いでくれた、まさに供養するにふさわしい方がたでありましょう。

そして、お迎えをする私たち自身もまた、毎日食事をいただく身です。自らを振り返り、過ちは過ちとして認め、自らを正しく調べていく、そのような自分でありたいものです。

ご先祖さまがたをはじめとする多くの亡き方がたが繋いでくれた自分自身の「いのち」を見つめ、自らを正しく調べていくこともまた、大切な供養となるでしょう。

— 終 —